

伊那市の全ての先生方でICT活用教育について考える

本年度よりICTカンファレンスは伊那市の先生方全員が参加しての研究会・講演会となりました。先生方には事前に授業の様子と指導者からの討論の観点を示しました。各校の先生方は自分の考えを持って研究会に参加することができるようになりました。

また、カンファレンスに参加した信州大学教育学部の学生からは次のような感想が寄せられました。

子どもたちの学び方に着目して、「個別最適な学びをおこなうための選択肢の一つとしてのICT活用」は考えたことがあったが、「子どもたち自身が学びの場面に応じてICT活用を選択できるようにすること」は新しい視点だった。後者のような能力を子どもたちにつけてもらうためには、まず教師が学びの場面に応じたICTの活用をできるようにしていかなければならない。教師一人一人が専門性を高め、どの場面で活用するのが有効なのか、考えていく必要がある。今回の授業研究会で、そのようなことについての議論を聞くことができ、視野を広げることができた。また、子どもたちがICTを使う際に、何のために使うのか目的意識をもって学びに取り組めるようにしていくことも必要になると感じた。

今後、もっと自分の専門性を高め、場面に応じたICT活用を意識していきたいと思った。

小学校研究会

ICTをどのように使うかを考えるよい授業提供だった



①研究会は伊那市情報委員の先生方によって進められました。指導者の森下先生には会場にて指導していただきました。



②事前に公開された授業に関して各学校からの意見を共有しました。



③各学校からの報告を基にさらに意見交換が行われました。



④授業者の東春近小学校、宮坂彩音先生から振り返りが述べられました。

中学校研究会

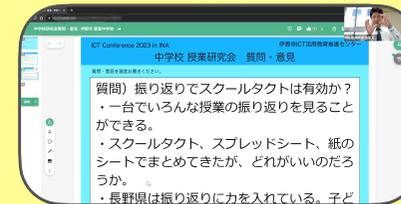
ICTを含め振り返りの意味について考える貴重な時間となった



①研究会は伊那市情報委員の先生方によって進められました。指導者の谷塚先生はオンラインにて参加いただきました。



②各学校内で研究主任などを中心に研究協議が行われ、協議の概要がスクールタクトに書き込まれ全体に共有されていきました。



③各学校での協議記録を基に指導者の谷塚先生からコーディネートしていただきました。



④授業者の春富中学校、池上日奈子先生から振り返りが述べられました。

伊那市内・外からの感想

・研究会では、ICT含め、振り返りの意味について、他の教科の先生と話し合え、さらに他の学校や公開授業も通して意味のある時間だった。形だけになってしまいがちな振り返りをどうしていくべきか、ICTと紙の扱いといった、現代だからこそこの課題に対してどのような解決があるか、私たち自身も考えていきたい。（伊那市内の参加者）
・中学校では、提案性がある授業だったと思います。本時ではクラウド上での交流に特化させて、教師の支援もチャットでした。10人も支援できたのはさすがだと思います。自分の考え、そして友だちの考えを受け入れて、最後に自分の考えをまとめる。完璧な授業だったと思います。研究会では、春富中の本会場に参加させていただきました

たが、それぞれの教科の立場で真剣に考えるインパクトある授業だったと思います。ありがとうございました。（伊那市外の参加者から）
・教科性が出ていて面白かったです。先生の関わったことは、子どもの学習成果と認められるが、先生の観ていないところで行われた活動に対しては、つい半信半疑になってしまう先生がいましたが、令和の学びでの評価など、今までのやり方からジャンプするのは大変なところもあるなと思いました。このような授業研究の積み重ねが大切なんだなと思いました。もう少し子どもたちを信じてあげられるかがきっとその壁なのかなとも思いました。（伊那市外の参加者から）